令和５年度「探究的な学習の在り方に関する研究推進地域事業」
坂中学校区（坂中学校、 坂小学校、 横浜小学校、 小屋浦小学校）

坂中学校区　探究的な学習の授業づくりにおける三つの柱

課 1 課題意識をもたせるしかけ

自分が想像していたこととのズレを感じさせたり、憧れをもたせたりするための工夫を行う。

ICT 2 ICT の効果的な活用

ICT の、時間的・空間的制約を超えること・双方向性を有すること・カスタマイズが容易であることなどの特徴を生かし、これまでの教育活動において実施が困難だった活動や、時間がかかっていた活動を単元の中に積極的に取り入れる。

GT 3 ゲストティーチャーの効果的な活用

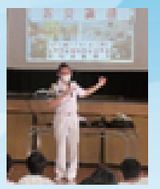
外部人材（外部機関）を積極的・効果的に活用し、生徒にとって充実した活動となるようにする。

※上記１～３について、単元の学習活動の中で、生徒に資質・能力を身に付けさせるために、効果的に活用された場面をマークで示している。

坂中学校

第３学年 防災学習「お互いの命を守りあおう」

探究課題「ふるさと坂のために、
中学生の私たちができることは何だろう。」



課 ①課題の設定
○KJ法を用いて、 坂町のよいところ、 改善してほしいところを交流する。
○坂町のこれまでの一般会計歳出を比較し、 気付いたことを交流する。

①課題意識をもたせるしかけ

坂町の災害復旧費が
５億５０００万円（令和元年度）⇒３０００万円（令和４年度）
になっていることを坂町の会計歳出から知る。

↓

・こんなに災害復旧費が減っているとは思わなかった。
・予算が少なくなっている中で、どんな防災対策ができるだろうか。
・中学生としてふるさと坂のためにできることはないだろうか。

【経済的な観点】【生徒の認識とのズレから課題意識をもたせる】
【坂町の施策が復旧から復興へ変化していることにも気付かせる】

②情報の収集
○防災学習プリントを使って、 防災に関する基礎的な知識を学ぶ。

GT ⑤体験・振り返り
○まとめとして、自衛隊による出前授業を行い、自己の学びを関連付け、 探究活動Ⅰを振り返る。

課 ICT ①課題の設定
○西日本豪雨の被災者の体験談を聞く。
○坂町HPの「復旧・復興に関する動画」を視聴する。

ICT ③整理・分析
○前時の学習から興味を持ったテーマを決め、テーマに沿って調べたことをPPにまとめる。

④振り返り
○探究活動Ⅰ・Ⅱをもとに、防災学習での学びを外部に発信する方法や手段について考える。

ICT ④創造・表現
○PPを使って調べたことを発表し、 他者に伝える。
○ジャムボードを使って、他者評価を行う。

ICT GT ③創造・表現
○追悼集会を企画・運営する。
○追悼集会で、「防災に向けたメッセージ」を発表する。

課 GT ①課題の設定
○坂町環境防災課の方から坂町の取組、 課題について知り、 中学生の私たちだからできることについて考える。

③ゲストティーチャーの効果的な活用

坂町環境防災課の方を招聘し、坂町の取組や課題について専門家から、直接知ることで、中学生の私たちだからできることを考えさせながら、課題を設定した。

②ICT の効果的な活用

３年生から１・２年生へ「防災に向けたメッセージ」として、啓発を呼びかける動画や、パワーポイントによる説明を行った。動画の撮影・編集も含めて全てタブレットを使って生徒が作成した。

ICT ②情報の収集・整理・分析
○探究活動Ⅰの学びを振り返り、 坂中生徒へ伝えたい「防災に向けたメッセージ」を作成する。

②ICT の効果的な活用

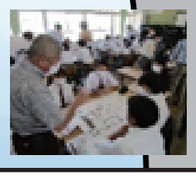
google のアンケート作成ツール「Forms」を使って、防災意識に関する実態について、小中学生合わせて５７１人に対して調査を実施した。その際、カリキュラム･マネジメントの視点に立ち、技術科と連携し、Forms でのアンケート作成方法を全員で学習した。【データ収集】【生徒の「やりたいこと」を実現】

ICT ②情報の収集
○Formsを使ってアンケートを実施し、 実態を把握する。
○防災、減災に関わる坂町の取組についての理解を深める。

⑤体験・振り返り
○他の中学校と防災に関わるオンライン交流会を実施する。

ICT GT ③整理・分析
○情報収集を基に、テーマを決め、これまでの学びを外部に発信する方法を考える。（誰に対して、どこで、どのような方法で　等）
○構想案を有識者に発表、意見交換を行い、 構想案を見直す。

④創造・表現
○見直した構想案を基に、資料や動画を作成し、 外部に発信する。



③ゲストティーチャー（GT）の効果的な活用

事前に教員が GT と密に連携を行い、アドバイスの方向性を確認する。生徒は、自分たちで考えた構想案を GT に見てもらい、アドバイスを受ける。

【アドバイスの例】
・（ポスターを制作する班に対して）「防災のポスターは行政でも作っていると思うよ。みんなが作るポスターはそれと何が違うの？」「地域の高齢者はポスターを見るかな。あの子が言うなら避難しようかと思える関係を作っていくことの方が大事かもしれないね。」

↓

生徒はこのアドバイスを受けて、ポスターに自分たちの顔写真と吹き出しを付けて、地域の高齢者の方にも見てもらえる工夫を行った。

【事前の連携】【教員からでなく、専門家からのアドバイス】

坂小学校　第4学年「きれいで自まんできる町 坂町～わたしたちにできること～」

Ⅰ これまでの学習を基に、 新たな課題発見・課題設定 ～課題意識を持たせるしかけ～ 「坂町はきれいで住みやすい町だと思っていたけど、 実際は？」

「坂町は、きれいで住みやすい町と言えるのだろうか。」と問う中で、身近なごみに着目して考える児童が多く見られた。ワークシートを活用して坂町の実態について話し合い、知りたいことや調べたいことを焦点化し、課題を設定した。

○まずは実地調査！ごみ拾い等のフィールドワークを通して坂町のごみ問題に関する情報収集を行う

実地調査を通して、空き缶やペットボトル等の大きなものから煙草の吸い殻やマスク等の小さなものまで多種多様のごみが落ちていることに気付いた。児童は、「見付かりにくいところにごみが隠れていた。見えないだけで、実はたくさん捨てられていたよ。」「坂町を汚してほしくない。」「自分達にできることって何だろう。」と、得られた情報を基に、話合いを重ねていった。

○調べたことをもとに整理・分析し、 ごみを減らす方法を考え、 表現・まとめる

「ごみを減らすためにはどのような取組が有効なのか」を話合いのテーマとして、班ごとにワークシートを用いて現状を比較したり、分類したり、関連付けたりして情報内の整理を行った。その後、ポスターにまとめて外部（坂町役場、坂駅、坂みみょう保育園等）へ発信していくことにした。

Ⅲ 他者との関わりによって、 新たな課題や改善策を見い出す工夫

完成したポスターを坂町役場や坂駅、坂みみょう保育園へ持参し、伝えたい内容が伝わるかを吟味してもらった。「坂駅は、煙草のごみが多いので見た人が意識できるようなポスターにしてもらいたい。」「保育園は、文字よりも絵を見て何がいけないのか分かるようにしてほしい。」等、地域の人々から発信した情報に対する感想やアドバイスをもらい、それらを基にして改善・発展させることができた。

○アンケートや質問紙で実態調査～ポスターの効果はいかに～【ICT 活用】

本校の児童と保護者へ Google アンケートや質問紙における調査を行った結果

- ポスターを見たことがある。
- 地域のごみ問題への関心が高まった

→ 肯定的評価 約 50%

児童が予想していたよりもポスターは認知されていなかったことから、「ポスターは見ないと伝わらない。自分たちの言葉で直接、地域の人々に発信していこう。」と課題を再度、設定した。

Ⅲ 坂町のごみを減らすためにさらに「自分たちにできること」 をキーワードに課題設定

坂小学校の児童へは、校内放送をしたり、ちらしを配布したりした。地域の人々へは直接言葉で伝える場を設けることで、地域の方の関心を高めることにつながった。また、坂みみょう保育園から「実際に、散歩へ出かけた際、ごみ袋をもってごみ拾いをしたよ。」という嬉しい知らせが届き、児童は、活動への達成感や満足感を味わうことができた。

横浜小学校　第4学年 「受け継ごう！伝えよう！横浜の宝　ひき船」

Ⅰ これまでの学習を基に、 新たな課題発見・課題設定 ～課題意識をもたせるしかけ～ 「ひき船って、 本当に横浜の宝なの？」

これまでに学んだ「横浜の良さ」から、まだ知らないことを見付ける中で、聞いたことはあるがほとんど見たことのないひき船があがった。そこから、ひき船は本当に宝なのか？と問いかけ、Jamboard にて思考ツール（X チャート）を活用し、調べたい・知りたいことなどを話し合い、課題を設定した。

○まずは自分たちがくわしくなることから！ゲストティーチャーから情報収集

ひき船に携わる地域の方に来ていただき、ひき船についてくわしく知るために情報を収集した。（～ゲストティーチャーの活用～）
歴史、由来、飾り、かつぎ方、服装、秋祭りとの関係など

○集めた情報を「ひき船は横浜の宝」と言えるのかという視点で分析・まとめ

思考ツール（クラゲチャート）を用いて、ひき船が「宝」と言える理由を分析・交流した。「長い間続いている」「小学生のために作られた子船もある」「秋祭りで行われている」「遠くからも帰ってきてかつぐ人もいる」「みんなの思いがつまっている」など、多様な理由から、「ひき船は長い間、横浜で続いてきた伝統であり、自慢できる宝である」とまとめた。そして、自分たちの学びを、「宝」という視点でレポートにまとめた。（～ ICT の活用～）

Ⅱ ショックを与え、 危機感をもつことのできる課題設定 ～課題意識をもたせるしかけ～

ひき船についてくわしく知った後、全国的に伝統行事や文化を継承していくことが課題となっていることを、動画や新聞記事で学んだ。坂町も 3 年連続で秋祭りが中止になり、ひき船が担がれていないことから、「ひき船を知らない人も増えているかもしれない」、「認知度も知る必要がある」と考え、アンケートを実施した。

○Google アンケートで実態調査　認知度調査で、ドキリ!! ～ ICT の活用～

本校の児童と 3 ・ 5 ・ 6 年生の保護者へアンケートを実施した結果…

低学年
- ひき船があることを知らない。
- 学校に子船があることを知らない。
- 秋祭りでひき船を見たことがない。

保護者
- ひき船は続いてほしい（73%）、どちらでもよい（27%）
- 秋祭りでひき船が見られなくて残念（70%）、残念でない（30%）

思っていた以上に知らない児童が多いことや、秋祭りでひき船を見たことのない保護者の方もおり、伝統を受け継ぐ思いに差が見られたことから、**「横浜の宝、受け継ぐために自分たちにできることを考えよう。」**と課題を設定した。

○ゲストティーチャーから情報収集 ～ゲストティーチャーの活用～

伝統を受け継ぐために大切なことを学ぶために、地域の方からお話を伺った。

- 親が大切にしていることは自分も大切にしていきたい。
- ひき船を担ぐのは重いし大変だけど誇りに思っている。
- 大勢で担ぐ一体感・地域のつながりも感じる。だから伝統はつながっている。

○ひき船に対する思いや願い、 ひき船の認知度について学習した後、 ひき船を受け継ぐために自分たちにできることを考える。 ～ ICT の活用～

誰に、何をするかの視点で、考えを交流した。保護者や低学年、地域の方へ、ひき船や受け継いできた人たちの思いや今の自分たちの思いなどを伝えたいと考えた。

Ⅲ「自分たちにできること」 をキーワードに、 課題設定 「ひき船で横浜を元気にしよう」

保護者へは、学習発表参観日で学びを発表した。さらに、クラスで、お知らせ会チーム、パンフレットチームを作り、低学年へお知らせするチーム（ポスター・クイズラリー）とポスターやしおりなどを地域へ配布・掲示するチームに分かれ、実行した。ひき船に携わっている地域の方から喜ばれた。

小屋浦小学校　第5学年 「地域の防災意識アップ！」

Ⅰ 昨年度の活動を基にした今年度の学習計画 ～課題意識をもたせるしかけ～ 「防災カルタを、 どのように地域に広めたい？」

本校では、「平成 30 年に起きた西日本豪雨災害での悲しい出来事を、二度と繰り返したくない」という思いから、これまでにハザードマップや紙芝居を作成し、地域へと広めてきた。これらの防災の取組に触発され、昨年度は、防災カルタを作成した。今年度の当初に、防災カルタに込めた思いや地域に広める目的を確認し、テーマを決めたり計画を立てたりした。

○防災カルタを広めよう～ゲストティーチャーの活用～

小屋浦防災士会の方と連携して、保護者や地域の方を招いてカルタ大会を開いた。また、小屋浦みみょう保育園の防災教室（小屋浦防災士会主催）に参加し、防災カルタをプレゼントした。

○アンケートを分析しよう～ ICT の活用～

カルタ大会後に、本校の児童や地域の方にアンケートを実施した。

- 防災カルタをして楽しかった（96%）
- 防災意識を高められた（95%）
- 初めて知ったことがあった（73%）
- 防災カルタで直したらよいところがある（25%）

読み札を大きな声でゆっくり読んでほしい。
防災について楽しく学べるので、家庭にも配布してほしい。
読み札に書かれていることや、絵札のイラストをじっくりと見たい。

Google フォームを使ってまとめることで、数値や意見をスムーズにまとめることができた。アンケートの結果を基に、カルタの良さや改善点について話し合い、今後に向けての課題を設定した。

Ⅱ アンケート結果を生かした学習計画の見直し ～課題意識をもたせるしかけ～ 「“防災意識が高い” とは？」

アンケート結果から、防災意識が高い姿について考え、「そなえる」「助け合う」「落ち着いて」の 3 つの合言葉にまとめた。アンケートの数字だけにこだわるのではなく、まずは自分たちが合言葉を意識して行動することや、カルタで学んだことを実生活に生かしてもらうことを確認した。

○防災カルタをもっと広めよう～ ICT の活用～

見直した学習計画を基に、グループに分かれて、カルタ配布やカルタ大会の準備を進めた。Google スライドを使って企画書を作成することで、活動のめあてや内容について、具体的に考えさせることができた。また、プレゼンテーション形式の発表会・質疑応答を行うことで、お互いの考えを深め合うことができた。

Ⅲ 学習発表会で伝えたいことの検討～課題意識をもたせるしかけ～ 「目的を達成するために、 発表会をどう生かす？」

カルタを配布したり、カルタ大会を開いたりしていく中で、児童は「もっとカルタを広めたい」「他の地域の防災意識も高めたい」との思いを強くしていった。そこで、多くの保護者や地域の人が集まる学習発表会を“絶好のチャンス”ととらえ、発表の内容や方法について精選した。

○発表会で伝えたいことを考えよう～ゲストティーチャーの活用～

Jamboard を使って、発表会で伝えたいことを検討した。「防災カルタを作ったきっかけ」「老人ホームや公民館を訪れ、一緒にカルタをしたこと」「未来の町の姿」など、様々な意見が出た後に、防災士の方から講評していただき、「防災で一番大事なことは、日頃から地域の人とつながること」という新しい視点を得ることができた。

○地域の方に伝えよう～ ICT の活用～

学習発表会では、小屋浦防災士会と協力して作った「AI 読み上げカルタ」や「カルタ 4 択クイズ」を紹介した。また、自分たちが考えた防災の具体策や合言葉について、スライドを使いながら伝えることができた。発表会後には、小屋浦防災士会の方から、直接感想をいただき、自分たちの思いが伝わったことを実感した。さらに、学校のホームページに、防災カルタとカルタ 4 択クイズを掲載し、いつでも誰でも活用できるようにした。